

第1回「日本鉄道賞」の受賞者について

「情報化への貢献」部門

【日本鉄道賞】：東日本旅客鉄道株式会社

(選考理由)

ICカードを活用した出改札システム「Suica（スイカ）」を導入し、切符購入の省略化、チャージ（入金）による繰り返し使用、乗り越し運賃の改札機における自動精算等、利用者に対して非常に高い利便性を提供することを実現した。

【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】：小田急電鉄株式会社

(選考理由)

忘れ物を全駅で即座に検索できるシステムやインターネット接続携帯電話等から特急券を予約・購入しチケットレスで特急に乗車できるシステムを初めて導入し、利用者利便の向上に貢献した。

「地方鉄道における活性化への貢献」部門

【日本鉄道賞】：岡山電気軌道株式会社

(選考理由)

超低床式路面電車「MOMO」の導入と併せて、情報技術を活用した電車運行情報の提供、バリアフリー化の推進等を一体的に行い、さらに市民団体とも連携しつつ街づくりの情報等を発信するなど地域の発展に尽くした。

【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】：津軽鉄道株式会社

(選考理由)

津軽の冬の風物詩として定着しているストーブ列車をはじめとして、季節毎に様々な趣向を凝らした列車の運行等を通じて利用の確保に努め、地方鉄道として地域に定着するよう長年にわたり努力を続けてきた。

「環境対策への貢献」部門

【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】：日本貨物鉄道株式会社及び三岐鉄道株式会社

(選考理由)

中部新国際空港の建設に当たり、埋立土砂の一部について鉄道輸送を活用することによりモーダルシフトを実施し、CO₂、NO_x等の削減に寄与した。